

## [抗議声明]

### 高浜原発3・4号の40年超え運転の了承に強く抗議する

福井県は本日（7月9日）、来年に運転開始から40年となる高浜3・4号の20年間の運転延長を了承した。立地の高浜町長、福井県原子力安全専門委員会、県議会、県安管協の意見を聞いただけで、またも県民や周辺自治体・住民の声を聴くこともなく強引に了承した。私たちはこれに強く抗議する。

関西電力7基の原発の内、大飯3・4号以外の4基の原発が40年超えの運転となる。多くの老朽原発の運転によって、周辺住民に事故の危険を押し付けることは許されない。高浜3・4号の運転を停止し、廃炉を決定すべきだ。

高浜3・4号では、6年前より定期検査に入るたび、8回連続で蒸気発生器（SG）細管に計33か所もの外面減肉損傷が見つかった。細管の厚みが最小で残り0.48mmになる深い減肉だ。関電と原子力規制委員会は、「異物」あるいはスケールが原因と言ってきたが、原因を特定しないまま運転を続けてきた。関電は運転延長に向け、3・4号のSGを2026～2027年に取替えるとしている。しかし、まともな原因究明もないままに、取替えて損傷問題に蓋をするなど許されない。さらに、取替えを行えば、全長21mにもなる取り外したSG6台は、高濃度に汚染された核のゴミとして、敷地内の新たな保管庫に収納され、行き場のない核のゴミを増やすことになる。

電気ケーブルの絶縁低下の問題では、これまで通りのガイド等を基にして、重大事故を模擬する蒸気暴露試験をした後に、耐電圧試験をしているだけだ。2019年11月にNRA（規制委）技術報告が提起した、蒸気暴露中に著しい絶縁低下が起きることについては、何も考慮していない。これでは重大事故時の安全性は保証されない。

昨年1月30日の高浜4号の制御棒落下事故の原因も究明されていない。原因は電気ペネトレーション（電気ケーブルが通っている原子炉格納容器の貫通部）内のハンダ付け部分の接触不良だとしている。ところが関電の計画では、2027年度に該当部を取り出して調査することになっている。いまだにハンダ付け部分に問題があったのかを直接確かめもしていない。もしハンダ付け部が原因でない場合は、別の原因（例えば、電気ケーブルの絶縁低下等）が問題になる。老朽化との関係を明らかにすることもなく、40年超えの運転に突き進もうとしている。

高浜3・4号の運転延長で使用済みの核燃料はさらに増え続ける。現状でも高浜原発では、あと約4年で使用済燃料プールは満杯になる。そのため関電は、敷地内で乾式貯蔵施設の建設を狙っている。何十年保管するのか、保管後の搬出先も示さず、地元を核のゴミ捨て場にしようとしている。同時に、上関での中間貯蔵施設の建設も狙っている。しかし、六ヶ所再処理工場が事実上破綻するなかで、使用済核燃料の行き先はない。むつ中間貯蔵の稼働も許されない。

高浜3・4号の運転延長承認を撤回し、危険な老朽原発は廃炉にすべきだ。これ以上核のゴミを将来の世代に残してはならない。

2024年7月9日

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル3階 TEL：06-6367-6580 FAX：06-6367-6581